

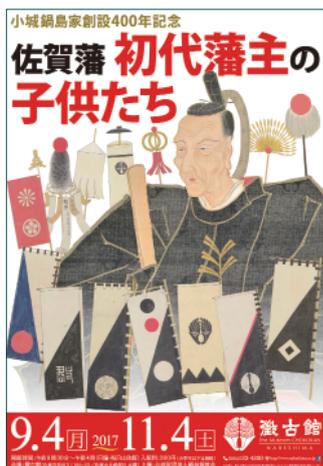


徴古館報 第35号 2018年(平成30年)1月発行



松平慈貞院(貢姫)肖像画 高木背水 筆

「佐賀藩 初代藩主の子供たち」



平成29年9月4日(月)から11月4日(土)まで、「佐賀藩 初代藩主の子供たち」展を開催しました。

平成29年が初代佐賀藩主鍋島勝茂の長男・元茂による最初の分家(小城鍋島家)創設から400年にあたるのを機に、初代藩主による一門の創設を中心とした藩政運営の基盤づくりをたどりました。

七男六女の子供たちと分家の創設

勝茂公は七男六女(※成人した子女のみ)の子供たちに恵まれましたが、このうち五男六女は徳川家康の養女である継室・高源院との間の子供です。

世継ぎとなったのは、高源院との最初の男子である二男忠直。他の息子たちは小城鍋島家、蓮池鍋島家、鹿島鍋島家、白石鍋島家といった分家を創設したほか、重臣の神代家を継ぐなど、本家とともに藩政運営や幕府に対する鍋島家の立場の維持・発展を目指しました。また娘たちは多久家をはじめとする龍造寺一門などに嫁ぐことで縁戚関係を深め、鍋島家の血縁的な基盤を広げていきました。



初代佐賀藩主となった勝茂公

龍造寺家の有力家臣として数々の武功を重ね、さらに龍造寺隆信とは義兄弟の関係でもあった鍋島直茂。その嫡男である勝茂は、慶長12年(1607)に龍造寺家の家督を引き継ぐ形で初代佐賀藩主となり、多久家などの龍造寺一門を重用しつつ初期の藩政を推し進めました。

「鍋島直正公の長女 貢姫」



平成30年が貢姫の没後100年および明治維新150年にあたるのを機に平成29年11月27日(月)から平成30年1月20日(土)まで「鍋島直正公の長女 貢姫」展を開催。

貢姫は幕末の藩主の長女として養育を受け、雅楽や和歌、雑刀や乗馬など文武の道に励みしました。本展では自筆の書画や用いていた楽譜、茶道具、調度品、婚礼に関する古文書、父からの直筆の手紙などを通じ、おもに文事の面からその生涯を振り返ります。

また期間中の1月14日(日)には、新春恒例イベントとなった香道体験会「初春の香りを楽しむ」を開催します。

直正公 待望の第一子

10代佐賀藩主鍋島直正の長女として、貢姫(健子)は天保10年(1839)に佐賀城で産声をあげました。側室・山本勇との子でしたが、直正の正室・盛姫の養育を受けるため7歳で江戸・桜田の佐賀藩邸に移りました。盛姫亡き後も継室・筆姫の養育を受け、17歳で6代川越藩主松平直侯(9代水戸藩主徳川齊昭の8男)に嫁ぎました。

鍋島家とともに

しかし、婚姻からわずか6年で直侯が亡くなったため、髪をおろし慈貞院と称しました。文久3年(1863)からは2年間、川越での暮らしも経験しました。

慶応4年(1868)には父・直正の勧めにより23年ぶりに江戸から佐賀に帰郷。武雄での転地療養ののち、晩年期の父をはじめ家族とともに佐賀城で過ごしました。

明治4年(1871)、33歳の時に父・直正が亡くなり、葬儀に参列するため筆姫らとともに上京。その後も鍋島家の庇護のもと、東京・永田町の鍋島邸の隣地に居住。その生涯を鍋島家とともに過ごした貢姫(慈貞院)は、大正7年(1918)5月20日に80歳の天寿を全うしました。



直正が貢姫に宛てた自筆の書簡

「古地図で佐賀城下の魅力再発見！」

本事業は当館が核となり、市民団体や佐賀県・佐賀市などと組織している「さが城下まちづくり実行委員会」による事業です。佐賀城下絵図などの古地図を中心とした収蔵資料を活用し、郷土の歴史を再認識し、今後のまちづくりに繋げることを目的に平成21年度から実施しています。9年目となる今年度は、引き続き藩士名簿や褒賞録(藩士の褒賞記録)の調査・翻刻作業およびデータベース整備、またこれらのデータをもとに、各テーマに沿ってゆかりの地をめぐる佐賀城下探訪会を開催。本誌前号で紹介した5月の探訪会に引き続き、10月～12月に下記の通り3回行いました。(カッコ内は参加者数)

第2回 10月1日(日)(81名)

「佐賀藩 初代藩主の子供たち」

同名の企画展に合わせて開催。初代佐賀藩主鍋島勝茂公や藩祖直茂公を祀る松原神社をはじめ、称念寺や龍泰寺、本行寺や伊勢神社などの寺社、また他家に嫁いだり分家を創設した初代藩主の子供たちの各屋敷地跡を探訪しました。心地よい秋風の中での約8kmの行程となりました。

第3回 11月5日(日)(106名)

「小城鍋島家の歴史と史跡バスツアー」

佐賀城下から少し足を延ばし、小城鍋島家創設400年を記念した小城市立歴史資料館の特別展見学と合わせて同家ゆかりの地をめぐるバスツアー。小城鍋島家の菩提寺や小城2代直能造営の自楽園(小城公園)、武家屋敷の名残りが残る小路なども散策したこの探訪会は、小城市文化課や玉毫寺・圓通寺・三岳寺などのご協力により実現しました。

第4回 12月3日(日)(99名)

「佐賀城下の水系 西めぐり」

昨年度の「佐賀城下の水系 東めぐり」に続き「西めぐり」を開催。多布施川、天祐寺川、本庄江、十間堀など、城下での生活、治水や防衛、そして長崎警備や反射炉での大砲製造などに不可欠な佐賀城下を支えた水系をめぐる約9kmの行程でした。「歩いたことで十間堀の広さが実感できた」「本庄江に堆積する砂の処理や堀浚いなど江戸時代の水路や堀の管理の苦勞が偲ばれた」と好評でした。



第3回探訪会 小城市・須賀神社前



第4回探訪会 佐賀市新栄西地区にて、堀沿いを歩く参加者

11月26日(日) 「佐賀市歴史まちづくりシンポジウム」にて事業の成果を発表

さが城下まちづくり実行委員会と佐賀市の共催により、標記のシンポジウムを徴古館2階で開催しました。第1部では、(1)佐賀市による「佐賀市歴史的風致維持向上計画(平成24年3月策定)」に基づく歴史まちづくりの取り組み、(2)さが城下まちづくり実行委員会による、佐賀城下探訪会など徴古館の歴史資料を活用した事業を紹介。

第2部では「歴史資産を活かしたまちづくり」をテーマに、城下の歴史的遺産を活かしたまちづくりに積極的に取り組む下記の5名によるパネルディスカッションを行いました。コーディネーターとして荒牧軍治氏(佐賀大学名誉教授/佐賀市歴史まちづくり協議会 会長)を迎え、各取り組みの概要、歴史的価値や楽しさを伝える重要性、史跡の利用と保全のバランスなどについて議論。参加者78名とともに、今後の歴史まちづくりについて考える機会となりました。

【パネリスト】

高瀬 哲郎 氏 石垣研究機構 代表/構口公園整備検討委員会 委員
村井 禮仁 氏 恵比須DEネットワーク 代表
平川 陽一 氏 柳町旧久富家(こねくり家 店長)
武廣 正純 氏 株式会社とっぺん 取締役会長(旧枝梅酒造活用予定者)
川崎 康弘 氏 さがクリークネット 代表



パネリスト(上)と熱心に聴講する参加者(下)

活動報告

【7月24日(月)】藩祖鍋島直茂公400回大遠忌法要

佐賀藩祖鍋島直茂公が元和4年(1618)6月3日に逝去されて以来、400回忌の祥月命日にあたるこの日、鍋島家菩提寺の高傳寺(佐賀市本庄町)にて鍋島家と当会の主催で直茂公の大遠忌法要を執り行いました。山口祥義佐賀県知事をはじめ、来賓や一般参列者の多くの方にご参列・ご焼香いただき、佐賀藩発展の基礎を築いた直茂公の徳を偲んでいただきました。



【9月24日(日)】第23回 プレイエル小音楽会

13代直泰夫人・紀久子様のご婚礼調度のピアノ「プレイエル」の音色を楽しむ小音楽会。今回はヴァイオリンとの共演で、須田美穂さん(ピアノ/洗足学園音楽大学ピアノ科非常勤講師)と荒川友美子さん(ヴァイオリン/九州交響楽団員)の息の合ったハーモニーによるショパンなどの13曲を、112名の皆様にお楽しみいただきました。



【12月2日(土)】鍋島直正公記念 好生館シンポジウム

佐賀県医療センター好生館と当会主催のシンポジウムをホテルニューオータニにて開催。磯田道史氏(国際日本文化研究センター 准教授)の講演の後、当館主任学芸員富田紘次も参加しパネルディスカッション「幕末維新时期に佐賀藩が果たした役割、そして好生館のこれからについて」を行い、約250名の方にご聴講いただきました。

【12月8日(金)】12代鍋島直映公御命日祭

鍋島家春日御墓所(佐賀市大和町)にて、12代直映公(昭和18年12月10日逝去)の御命日祭を執り行いました。直映公の御墓所は平成28年に東京・青山霊園内の鍋島家墓所から佐賀市の春日御墓所へ移され、今回が改葬後初めての御命日祭となりました。

展示案内

「鍋島家の雛祭り」展

平成30年2月11日(日)～3月31日(土)

毎年恒例の「鍋島家の雛祭り」展を開催します。11代直大夫人栄子様をはじめ、明治から昭和初期の歴代夫人が愛しんだ雛人形・雛道具約500点が、古写真をもとに往時の雛祭りになった、長さ5mと6mの二つの大雛壇を中心に並びます。豪華さと品格を兼ね備えた大雛壇飾りをお楽しみください。



明治維新150年記念

肥前さが幕末維新博覧会



明治維新から150年を迎える平成30年。市村記念体育館を主会場として県内の各施設で「肥前さが幕末維新博覧会」が開催されるのに合わせ、徴古館でも関連の展示を行います。10代佐賀藩主鍋島直正のもと教育や財政、長崎港の警備に力を注ぎ、強大な軍勢力を背景に雄藩へと駆け上った幕末の佐賀藩。そしてローマ公使や宮内省式部長官を務めた11代直大の侯爵鍋島家の時代をご紹介します。2人の当主のほか奥方や姫君にも焦点を当て、よりパーソナルな面を紐解く、鍋島家伝来資料を収蔵する当館ならではの展示にご期待ください。なお、博覧会期間中は開館時間や入館料等も下記の通り変更となります。

【博覧会期間】2018年3月17日(土)～2019年1月14日(月・祝)

■ 3月17日(土)～4月15日(日)は2階でのみ開催(100円)

■ 4月16日(月)～2019年1月14日(月・祝)は1階・2階で開催します(400円/会期中無休)

■ 開館時間:9時30分～18時

■ 期間中は順次展示替えを行います

※詳細はHPにてお知らせします



徴古館報 第35号 2018年(H30)1月発行

公益財団法人 鍋島報効会

〒840-0831 佐賀市松原2丁目5-22

TEL・FAX (0952)23-4200 MAIL info@nabeshima.or.jp

URL http://www.nabeshima.or.jp